

# 被害を拡大させた要因

## 就寝中の地震

犠牲者の死因に関する詳細な資料は残っていませんが、亡くなった方の多くは、家屋倒壊による圧死だったようです。午前3時38分頃という、就寝中の時間帯に大きな揺れがやってきたため、逃げる間もなく建物が倒壊してしまったとの話が多数残されています。また、都市部から農村の寺へ集団疎開していた児童が、本堂の倒壊に巻き込まれ犠牲となった箇所も数件ありました。

## 約1か月前に「東南海地震」が発生

この地震の37日前、1944年12月7日に熊野灘沖を震源として発生した「昭和東南海地震」(M7.9)も、被害を大きくした一つの要因となりました。戦時中だったこともあり、ほとんどの家では建物を修理することが出来ず、応急処置のままで住み続けていたようです。このような状況の中で三河地震が発生し、耐震性が弱くなっていた建物が倒壊してしまったことも多かったようです。



西深溝における断層  
(田に割れ目が続き沈下部分が見られる)



西尾市吉田小学校の倒壊



西尾市丁度町の民家倒壊



宗徳寺に残る地割れの様子(愛知県蒲郡市)  
(港防災センター職員撮影)

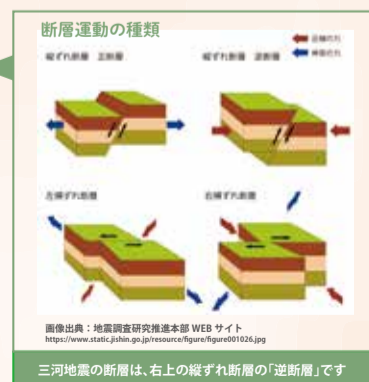
宗徳寺の雑木林内にできた約1.5mの地割れは、形原町音羽川河口から一色町や幸田町深溝まで進み、三ヶ根山を迂回して逆川の北方で消滅しています。昭和51年には蒲郡市指定天然記念物となりました。

参考：穂っとネット東三河(愛知県東三河総局)  
<https://www.higashimikawa.jp/spot/detail.php?id=387>



深溝断層の様子(愛知県幸田町)  
(港防災センター職員撮影)

三河地震の際にできた断層で、最大落差は約1.5mです。変位量が2本の杭で示されており、手前側より奥の方がせり上がっているのがわかります。



三河地震を今に伝える数少ない資料をまとめ継承しようとする活動や、被災された方の証言を元に災害の様相を検証する活動があります。また、深溝断層や宗徳寺に残る地割れなどは天然記念物に指定され、保護対象として災害教訓を後世に残す取り組みが行われています。